

での行為」7.7分、6.6%、「起座」5.1分、8.6%など、提供時間の平均値は長かったが、発生率は低かった。

なお、変動係数が大きく、個人によってばらつきが大きいケア内容別ケア時間としては、「その他の食事」227.4、「金銭管理」226.4、「行動上の問題の発生時の対応」215.0、「行動上の問題の予防的対応」211.2、「起座」209.9などが示され、いわゆるBPSDに係るケアの個人差がかなり大きいことが示された。

表 8-3 家族が提供した発生したケアにおけるケア内容別ケア時間

	1日平均(分)	1週間平均(分)	標準偏差	変動係数(%)	N	発生率(%)
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	83.0	581.2	112.8	135.9	72	14.4
34 摂食	45.4	317.7	32.1	70.7	351	70.3
31 調理	36.3	254.3	20.8	57.3	442	88.6
71 行動上の問題の発生時の対応	27.3	191.2	58.7	215.0	74	14.8
42 排便及びおむつ・パット介助	21.6	151.5	24.9	115.2	267	53.5
41 排尿	20.4	143.0	21.5	105.1	276	55.3
72 行動上の問題の予防的対応	20.4	143.0	43.1	211.2	96	19.2
29 その他の移動	16.8	117.5	29.8	177.5	4	0.8
33 食器洗浄・食器の片づけ	15.1	105.9	11.4	75.0	397	79.6
91 基本日常生活訓練	12.7	88.7	21.6	170.2	94	18.8
59 その他の会話	12.2	85.5	16.1	131.5	143	28.7
21 敷地内の移動	11.9	83.2	15.4	129.9	268	53.7
11 入浴	11.9	83.6	11.6	97.3	242	48.5
51 洗濯	11.4	79.9	9.6	84.1	387	77.6
73 行動上の問題の予防的訓練	11.1	77.8	11.4	102.7	4	0.8
39 その他の食事	11.0	77.1	25.0	227.4	10	2.0
18 更衣	9.9	69.3	9.1	91.6	387	77.6
92 応用日常生活訓練	9.1	63.8	11.4	125.3	26	5.2
23 体位変換	8.9	62.3	11.7	131.5	95	19.0
35 水分摂取	8.6	60.5	11.1	127.9	310	62.1
67 職能訓練・生産活動	8.6	60.0	0.0	0.0	1	0.2
84 観察・測定・検査	8.3	57.9	16.3	197.7	166	33.3
99 その他の機能訓練	8.1	56.9	7.7	94.6	9	1.8

81	薬剤の使用	7.8	54.9	7.7	97.8	337	67.5
66	外出時の目的地での行為	7.7	53.8	7.6	98.3	33	6.6
15	口腔・耳ケア	7.4	51.7	6.7	90.2	256	51.3
12	清拭	7.3	50.9	9.1	125.8	89	17.8
52	清掃・ごみの処理	7.1	49.6	6.9	97.4	363	72.7
32	配膳・下膳	7.1	49.9	7.9	110.3	248	49.7
89	その他の医療	6.8	47.8	8.9	130.4	4	0.8
64	来訪者への対応	6.3	44.4	8.5	133.5	59	11.8
101	対象者に関する間接業務	6.2	43.7	9.0	144.0	263	52.7
83	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	6.1	42.8	11.5	187.5	163	32.7
102	職員に関する間接業務	6.1	43.0	1.8	29.6	2	0.4
61	行事、クラブ活動	5.8	40.3	7.5	129.7	8	1.6
22	移乗	5.4	37.9	7.6	140.6	158	31.7
85	指導・助言	5.3	37.2	5.8	108.3	17	3.4
24	起座	5.1	35.5	10.7	209.9	43	8.6
55	金銭管理	4.7	33.2	10.7	226.4	10	2.0
68	社会生活訓練	4.7	32.6	6.4	138.1	4	0.8
86	病気の症状への対応	4.6	32.0	5.0	109.7	24	4.8
94	スポーツ訓練	4.5	31.4	4.2	93.4	23	4.6
14	洗面・手洗い	4.4	30.6	3.5	79.4	296	59.3
65	外出時の目的地までの移動	4.4	30.7	5.7	129.8	170	34.1
25	起立	4.1	29.0	6.1	147.7	21	4.2
95	牽引・温熱・電気療法	4.1	29.0	4.4	105.4	11	2.2
93	言語・聴覚訓練	3.8	26.9	3.4	88.2	10	2.0
49	その他の排泄	3.8	26.8	6.1	159.9	9	1.8
17	整容	3.5	24.7	4.0	113.1	180	36.1
54	食べ物の管理	3.4	23.7	3.5	103.1	19	3.8
53	整理整頓	3.1	21.5	3.7	118.8	134	26.9
19	その他の入浴	3.1	21.8	4.0	129.1	10	2.0
26	介助用具の着脱	3.0	21.1	3.0	98.1	16	3.2
63	文書作成	3.0	20.7	2.5	85.8	10	2.0
13	洗髪	2.8	19.3	3.7	135.0	11	2.2
56	戸締まり・火の始末・防災	2.5	17.8	2.5	96.5	48	9.6
79	その他の行動上の問題	1.8	12.8	1.7	91.8	4	0.8

62	電話、FAX、E-mail、手紙	1.4	9.7	2.7	195.0	22	4.4
109	その他の間接業務	0.5	3.5	0.0	0.0	1	0.2
69	社会生活支援のその他	0.4	3.0	0.0	0.0	1	0.2

2) 職員が提供した発生したケアにおけるケア内容別ケア時間

職員が提供した時間について、1日あたりの提供時間を分析した結果、ケア時間が最も長かったのは、「入浴」14.9分であり、発生率も20.2%と高かった。これは訪問入浴によって提供されたケアであった。

続いて、提供時間が長かったのは、「摂食」12.3分、「調理」11.1分で、これらは訪問介護によって提供されたケアであった。訪問介護においては、食事に係る時間の提供は長く、発生率も高かった。在宅で、職員によって提供されていたケアで「入浴」、「摂食」、「調理」は、10分以上の長いケアであった。これらのケアのほかに職員によって1分以上提供されていたケアは、48種類あった。

さらに、5分以上提供されていたケアで発生率が10%以上のケアとしては、「外出時の目的地までの移動」5.6分、34.3%であったが、このケアは変動係数が131.2とかなり高く、個人差が激しいケアであると推察された。「観察・測定・検査」は、4.3分で33.5%に発生していたが、これも変動係数が112.2と高く、個人差が大きかった。「基本日常生活訓練」は、6.6分で21%、「清掃・ごみの処理」は、7.9分で17%、「更衣」は、3.3分で16.4%であったが、変動係数が162と高く、個人差が大きいたことが予想された。同様に、「排便及びおむつ・パット介助」は7.4分、15.8%で変動係数が154.2、「排尿」4.3分、9.2%で変動係数が140.8、

「対象者に関する間接業務」が4.8分で15.8%、変動係数が148.2、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」が3.8分で11%、変動係数が144.7、「薬剤の使用」は、3.6分、8.8%、変動係数が167.6、「体位変換」3.5分、6%、変動係数164.8、4.6%、152.2と示され、これらの排泄や間接業務、処置、薬剤の使用、体位変換は、個人差が大きかった。

このほかに、比較的、長い時間が職員から提供されていたケアとして、「清拭」7.4分、10.8%、「その他の会話」5.9分、9.4%、「口腔・耳ケア」3分、9.2%、「洗濯」4.1分、8.8%、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」7.7分、8%、「食器洗浄・食器の片づけ」3.5分、6.4%、「病気の症状への対応」3.8分、5.4%と示された。

前述したように変動係数が大きく、個人によってばらつきが大きいケア内容別ケア時間としては、「スポーツ訓練」192.9、「薬剤の使用」167.6、「体位変換」164.8、「更衣」162.0が高い値であったが、職員によって提供されたケアのほうが、家族よりも変動係数は小さかった。

表 8-4 職員が提供した発生したケアにおけるケア内容別ケア時間

	1日平均 (分)	1週間 平均(分)	標準 偏差	変動 係数	N	発生率
11 入浴	14.9	104.6	12.0	80.4	101	20.2
34 摂食	12.3	86.0	15.2	123.5	48	9.6
31 調理	11.1	77.8	13.3	119.2	67	13.4
55 金銭管理	8.9	62.5	4.5	50.9	2	0.4
52 清掃・ごみの処理	7.9	55.2	6.3	79.9	85	17.0
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器 にかかるとの処置	7.7	53.8	8.2	106.6	40	8.0
42 排便及びおむつ・パット介助	7.4	52.1	11.5	154.2	79	15.8
12 清拭	7.4	52.0	7.7	103.4	54	10.8
64 来訪者への対応	7.1	50.0	5.3	74.8	6	1.2
99 その他の機能訓練	7.0	49.3	5.1	72.8	6	1.2
13 洗髪	6.7	46.8	8.6	129.2	7	1.4
91 基本日常生活訓練	6.6	45.9	5.4	81.8	105	21.0
72 行動上の問題の予防的対応	6.6	46.1	11.8	179.0	11	2.2
71 行動上の問題の発生時の対応	6.3	44.4	8.5	133.3	9	1.8
59 その他の会話	5.9	41.0	6.0	102.7	47	9.4
65 外出時の目的地までの移動	5.6	38.9	7.3	131.2	171	34.3
101 対象者に関する間接業務	4.8	33.6	7.1	148.2	79	15.8
94 スポーツ訓練	4.6	32.5	9.0	192.9	12	2.4
84 観察・測定・検査	4.3	30.3	4.9	112.2	167	33.5
41 排尿	4.3	30.1	6.1	140.8	46	9.2
69 社会生活支援のその他	4.3	30.0	0.0	0.0	1	0.2
51 洗濯	4.1	28.7	3.1	75.3	44	8.8
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉科及 び手術にかかるとの処置	3.8	26.7	5.5	144.7	55	11.0
86 病気の症状への対応	3.8	26.4	4.1	108.0	27	5.4
92 応用日常生活訓練	3.7	26.0	4.4	117.8	13	2.6
81 薬剤の使用	3.6	25.4	6.1	167.6	44	8.8
33 食器洗浄・食器の片づけ	3.5	24.6	3.3	94.5	32	6.4
23 体位変換	3.5	24.6	5.8	164.8	30	6.0
18 更衣	3.3	23.3	5.4	162.0	82	16.4
95 牽引・温熱・電気療法	3.1	21.6	2.3	73.4	4	0.8

15	口腔・耳ケア	3.0	21.2	3.2	106.9	46	9.2
24	起座	3.0	21.2	2.8	91.2	10	2.0
93	言語・聴覚訓練	2.8	19.7	1.5	54.4	6	1.2
32	配膳・下膳	2.7	19.2	4.1	148.8	36	7.2
54	食べ物の管理	2.7	19.0	2.1	77.6	5	1.0
61	行事、クラブ活動	2.6	18.3	0.4	15.7	3	0.6
66	外出時の目的地での行為	2.6	18.0	1.9	72.9	3	0.6
22	移乗	2.4	16.7	2.8	119.1	93	18.6
85	指導・助言	2.4	17.1	2.1	85.5	34	6.8
21	敷地内の移動	2.3	16.2	2.6	114.3	134	26.9
14	洗面・手洗い	2.3	16.1	1.8	80.3	35	7.0
26	介助用具の着脱	2.3	16.0	1.2	53.0	2	0.4
17	整容	2.1	14.8	1.9	89.8	38	7.6
53	整理整頓	2.1	14.4	2.0	95.2	25	5.0
73	行動上の問題の予防的訓練	1.9	13.0	0.6	32.6	2	0.4
35	水分摂取	1.8	12.4	1.9	107.0	75	15.0
56	戸締まり・火の始末・防災	1.7	11.9	2.1	125.0	12	2.4
39	その他の食事	1.6	11.5	1.3	79.9	2	0.4
49	その他の排泄	1.4	10.0	1.2	86.6	3	0.6
19	その他の入浴	1.3	9.3	0.4	26.8	2	0.4
29	その他の移動	0.9	6.0	0.0	0.0	1	0.2
25	起立	0.8	5.8	0.7	82.1	5	1.0
62	電話、FAX、E-mail、手紙	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2
63	文書作成	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2
89	その他の医療	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2

3) 他人が提供した発生したケアにおけるケア内容別ケア時間

1日あたりで、ケア時間が最も長かったのは、「行動上の問題の発生時の対応」であり21.4分であったが、発生率はわずか0.2%で、1人に提供されただけのものであった。このように他人が提供したケアは、発生率が低いため、その平均時間の解釈については注意が必要である。

提供時間が長かった10分以上のケアとしては、「その他の会話」が15.8分、1.8%であり、「職員に関する間接業務」が13.6分、0.4%で、「来訪者への対応」が12.3分、1.4%、「食器洗浄・食器の片づけ」12.1分、2.6%、「外出時の目的地での行為」11.4分、0.2%が示された。

5分以上提供されたケアとしては、「摂食」8.3分、3.8%、0.8%、「行事、クラブ活動」7.1分、0.2%、「調理」6.9分、4.0%、「基本日常生活訓練」6.7分、1.4%、「薬剤の使用」5.3分、2.6%、「入浴」5.2分、1.2%、「清掃・ごみの処理」5.0分、1.4%が示された。

これらの発生したケアにおいて、変動係数が大きく個人によってばらつきが大きいケアとしては、「食器洗浄・食器の片づけ」269.4、「観察・測定・検査」239.5、「摂食」224.3などが示され、他人によるケアの提供に個人差が大きいことが示された。

表 8-5 他人が提供した発生したケアにおけるケア内容別ケア時間

	1日平均(分)	1週間平均(分)	標準偏差	変動係数	N	発生率
71 行動上の問題の発生時の対応	21.4	150.0	0.0	0.0	1	0.2
59 その他の会話	15.8	110.8	34.4	217.6	9	1.8
82 呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置	14.9	104.6	23.6	157.9	5	1.0
102 職員に関する間接業務	13.6	95.0	12.3	90.8	2	0.4
64 来訪者への対応	12.3	86.4	12.6	102.2	7	1.4
66 外出時の目的地での行為	11.4	80.0	0.0	0.0	1	0.2
34 摂食	8.3	58.4	18.7	224.3	19	3.8
61 行事、クラブ活動	7.1	50.0	0.0	0.0	1	0.2
31 調理	6.9	48.3	9.9	142.9	20	4.0
91 基本日常生活訓練	6.7	46.9	1.8	26.8	7	1.4
81 薬剤の使用	5.3	37.0	9.6	181.4	13	2.6
11 入浴	5.2	36.1	3.3	64.7	6	1.2
52 清掃・ごみの処理	5.0	34.9	8.9	177.6	7	1.4
72 行動上の問題の予防的対応	4.8	33.8	6.3	130.9	2	0.4
51 洗濯	4.4	30.7	5.7	129.9	9	1.8
12 清拭	4.4	31.0	4.7	106.5	4	0.8
83 運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置	4.4	30.8	4.6	104.9	4	0.8
99 その他の機能訓練	4.3	30.0	0.0	0.0	1	0.2
15 口腔・耳ケア	4.1	28.4	7.9	196.0	10	2.0
84 観察・測定・検査	4.0	27.8	9.5	239.5	12	2.4
17 整容	4.0	28.3	2.7	66.2	6	1.2
33 食器洗浄・食器の片づけ	3.9	27.2	5.1	130.8	13	2.6

101	対象者に関する間接業務	3.6	24.9	2.8	78.2	14	2.8
86	病気の症状への対応	3.6	25.0	1.9	54.2	4	0.8
21	敷地内の移動	3.2	22.5	3.5	110.1	13	2.6
42	排便及びおむつ・パット介助	2.8	19.9	1.7	59.6	12	2.4
18	更衣	2.5	17.7	4.8	190.4	9	1.8
35	水分摂取	1.6	11.5	1.5	90.3	14	2.8
41	排尿	1.6	11.4	1.2	71.9	9	1.8
65	外出時の目的地までの移動	1.6	11.3	0.7	42.6	4	0.8
54	食べ物の管理	1.4	10.0	0.0	0.0	1	0.2
53	整理整頓	1.3	9.0	0.7	50.9	3	0.6
56	戸締まり・火の始末・防災	1.2	8.5	0.0	0.0	1	0.2
14	洗面・手洗い	1.1	7.5	1.5	138.2	7	1.4
23	体位変換	1.1	8.0	1.2	103.1	5	1.0
24	起座	1.1	7.5	0.5	47.1	2	0.4
95	牽引・温熱・電気療法	1.0	7.0	1.1	111.1	2	0.4
22	移乗	0.8	5.9	0.9	105.8	8	1.6
32	配膳・下膳	0.8	5.3	0.6	78.2	8	1.6
25	起立	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2
85	指導・助言	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2
94	スポーツ訓練	0.7	5.0	0.0	0.0	1	0.2
55	金銭管理	0.4	3.0	0.0	0.0	1	0.2

第9章 徘徊行動がある群の属性及び提供されたケア内容

本章では、アセスメント項目において「一人で戻れないことがある」にあると回答した69名を徘徊のある高齢者群として、その他の徘徊がない高齢者群と比較し、その属性および提供されたケア内容にどのような相違があるかについて検討を行った。

1. 徘徊のある高齢者群の属性について

(1) 調査項目の回答傾向の比較

1) BPSD 関連本調査追加項目

① BPSD 関連項目

本調査に追加された BPSD 関連項目のうち徘徊の有無によって統計的有意差があったのは、38項目で、最も徘徊の有無による差が大きかったのは、「戸締まりを忘れる」であった。「徘徊有り」の場合に「あり」と示されたのは70.1%、「徘徊無し」の場合には、25.8%であり、その差は44.3ポイントもあった。

次いで、「会話にならない」については、「徘徊有り」群においては、「ある」は64.2%、「徘徊無し」群は、23.0%で41.2ポイントの差があった。同様に、「徘徊有り」群のほうが徘徊無し群に比較して、「あり」の割合が高かったのは、「曖昧さへの対応付加」が「徘徊有り」群が80.9%、「徘徊無し」群が41.2%で39.7ポイント、「唐突な言動・行動」が「徘徊有り」群が66.2%、「徘徊無し」群が26.7%で39.5ポイント、「一人で勝手に外出」が「徘徊有り」群が47.8%、「徘徊無し」群が9.3%で38.6ポイント、「比喩を理解できない」は、「徘徊有り」群で79.1%、「徘徊無し」群で40.8%と38.3ポイント、「意思決定できない」は、「徘徊有り」群で89.9%、「徘徊無し」群で51.9%と38.0ポイント、「誤解して行動」は、「徘徊有り」群で61.8%、「徘徊無し」群で24.2%と37.5ポイント、「同時に2つができない」は、「徘徊有り」群で89.6%、「徘徊無し」群で53.9%と35.6ポイント、「途中で投げ出す」は、「徘徊有り」群で61.2%、「徘徊無し」群で27.6%と33.6ポイント、「自分勝手な行動」は、「徘徊有り」群で63.2%、「徘徊無し」群で31.0%と32.2ポイント、「情緒不安定」は、「徘徊有り」群は66.2%、「徘徊無し」群は34.3%で、31.9ポイント、「損得判断できない」は、「徘徊有り」群は、69.6%、「徘徊無し」群は、37.7%と31.9ポイントと続いていた。これらのケアは、すべて30ポイント以上の差で有意となった。

また、これらの有意な差があった項目の中でも、「意思決定できない」は「徘徊有り」群では「あり」が89.9%、「同時に2つができない」も「徘徊有り」の場合89.6%と高く、徘徊有り群においては、意思決定ができず、同時に2つができない者が、徘徊無し群よりも多いことを示していた。

このほかに、徘徊の有無によってケアの発生率の差が大きかったケアとして、「不安定な状況がある」というものについては、「徘徊有り」群は、46.4%、「徘徊無し」群は、18.2%とその差が28.2ポイントと示された。同様に、「安全判断できない」は、「徘徊有り」群は、

75.4%、「徘徊無し」群は、47.2%と 28.2 ポイント、「人の言いなりになる」は、「徘徊有り」群は、44.1%、「徘徊無し」群は、16.1%と 28.0 ポイント、「多動」については、「徘徊有り」群は、34.8%、「徘徊無し」群は、7.5%と 27.2 ポイント、「気持の切替ができない」は、「徘徊有り」群は、45.6%、「徘徊無し」群は、21.0%で、24.5 ポイント、「閉じこもり」は、「徘徊有り」群は、51.5%、「徘徊無し」群は、28.7%で、22.8 ポイント、「昼間の閉じこもり」「徘徊有り」群は、51.5%、「徘徊無し」群は、29.9%と 21.6 ポイントの差があった。

これらについても徘徊の有無によって、有意な差があり、2群の行動の差が示された項目であった。

表 9-1 徘徊の有無によって統計的有意差があった BPSD 関連項目の「あり」の割合
(徘徊の有無による割合の差降順)

		徘徊有り	徘徊無し	徘徊の有無の差
		(N=69)	(N=425)	
		%	%	
戸締りを忘れる	ある	70.1 ¹⁾	25.8 ⁴⁾	44.3
会話にならない	ある	64.2 ¹⁾	23.0 ⁵⁾	41.2
曖昧さへの対応不可	ある	80.9 ²⁾	41.2 ⁵⁾	39.7
唐突な言動・行動	ある	66.2 ²⁾	26.7 ⁶⁾	39.5
一人で勝手に外出	ある	47.8	9.3 ⁷⁾	38.5
比喩を理解できない	ある	79.1 ¹⁾	40.8 ⁸⁾	38.3
意思決定できない	ある	89.9	51.9 ⁵⁾	38.0
誤解して行動	ある	61.8 ²⁾	24.2 ⁷⁾	37.5
同時に2つができない	ある	89.6 ¹⁾	53.9	35.6
途中で投げ出す	ある	61.2 ¹⁾	27.6 ⁹⁾	33.6
自分勝手な行動	ある	63.2 ²⁾	31.0 ⁵⁾	32.2
情緒不安定	ある	66.2 ²⁾	34.3 ⁶⁾	31.9
損得判断できない	ある	69.6	37.7 ⁵⁾	31.9
不安定	ある	46.4	18.2 ⁹⁾	28.2
安全判断できない	ある	75.4	47.2 ⁹⁾	28.2
人の言いなりになる	ある	44.1 ²⁾	16.1 ⁶⁾	28.0
多動	ある	34.8	7.5 ⁹⁾	27.2
気持の切替ができない	ある	45.6 ²⁾	21.0 ⁶⁾	24.5
閉じこもり	ある	51.5 ³⁾	28.7 ⁶⁾	22.8

屋間の閉じこもり	ある	51.5 ²⁾	29.9 ⁵⁾	21.6
孤独を嫌がる	ある	44.9	25.4 ⁵⁾	19.6
無断借用	ある	23.2	4.0	19.2
意味の独り言等	ある	30.9 ²⁾	13.7 ⁵⁾	17.1
悲観的	ある	40.6	23.8 ⁵⁾	16.8
手順を変えられない	ある	39.7 ²⁾	23.2 ⁶⁾	16.5
過食等	ある	21.7	5.4	16.3
悲観的な言動	ある	45.6 ²⁾	31.0 ⁵⁾	14.5
疑い深い	ある	29.9 ¹⁾	15.9 ⁵⁾	14.0
強いこだわり	ある	40.6	27.2 ⁶⁾	13.4
日常動作に要時間	ある	21.7	8.5	13.3
停止	ある	24.6	12.0 ⁹⁾	12.6
集団参加ができない	ある	38.8 ¹⁾	26.5 ⁵⁾	12.3
破壊	ある	15.9	3.8	12.2
自殺をほのめかず	ある	15.9	4.7 ⁵⁾	11.2
過剰な心配	ある	51.5 ³⁾	41.6 ⁶⁾	9.9
外出できない	ある	20.9 ¹⁾	11.6 ⁹⁾	9.3
気を引くトラブル	ある	11.9 ¹⁾	5.4 ⁹⁾	6.5
知覚鈍磨	ある	13.4 ¹⁾	13.0 ⁹⁾	0.5

1) は、N=67、2) は、N=68、3) は、N=66、4) は、N=418、5) は、N=422、6) は、N=423、7) は、N=421、

8) は、N=419、9) は、N=424。

② 日常生活及び社会生活関連項目

本調査に追加された日常生活及び社会生活等関連項目のうち、徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、24項目であった。

その中でも、最も差が大きかったのは、「選挙での投票ができない」であり、「徘徊有り」の場合が「できない」が89.7%、「徘徊無し」の場合が60.1%であり、その差は29.6ポイントであった。次いで、「今の時間を理解」が29.5ポイント、「貴重品管理」22.8ポイント、「独力のストレス解消」21.7ポイント、「薬の管理」21.6ポイント、「課題に合わせて自決（日常場面）」20.1ポイントの差があり、これらの項目については、すべて「徘徊の有り」群の「できない」の割合が高く、しかも、その差がかなり大きいことが示された。

一方、「徘徊無し」群の「あり」の回答が多かった項目は、「テレビを日中見ている」であり、「徘徊有り」が「あり」が40.6%に対して、「徘徊無し」が58.3%と17.7ポイントの差が示され、「徘徊無し」群において、テレビの視聴率が高いことが示された。

次いで、「片方の手を胸元へあげることが一人でできない」が、「徘徊有り」群が1.5%に対して、「徘徊無し」群が14.1%と徘徊無し群のほうが12.6ポイントも高かった。「補装具」については、「徘徊有り」群が2.9%に対して、「徘徊無し」群が13.4%と徘徊無し群のほうが10.5ポイント高かった。「外出先あり」については、「徘徊有り」群が8.7%に対して、「徘徊無し」群が19.1%と徘徊無し群のほうが10.5ポイントも高かった。

表 9-2 徘徊の有無によって統計的有意差があった日常生活及び社会生活関連項目の「あり」の発生率（徘徊の有無による割合の差降順）

		徘徊有り (N=69)	徘徊無し (N=425)	徘徊の 有無の 差
		%	%	
選挙での投票	できない	89.7 ¹⁾	60.1 ⁴⁾	29.6
今の時間を理解	できない	59.4	29.9	29.5
貴重品管理	介助あり	94.2	71.4 ⁵⁾	22.8
独力のストレス解消	介助あり	79.7	58.0 ⁶⁾	21.7
薬の管理	介助あり	98.6	76.9	21.6
課題に合わせて自決(日常場面)	介助あり	85.3 ¹⁾	65.2 ⁷⁾	20.1
日常の金銭管理	介助あり	95.7	75.8	19.9
交友関係の維持	できない	71.6 ²⁾	52.0	19.6
郵便物や宅配便の処理	できない	87.0	68. ⁸⁾	18.8
医療関係者(訪問者)	ほとんどない、ない	69.7 ³⁾	51.3 ⁸⁾	18.4
情報機器	介助あり	92.8	77.3 ⁹⁾	15.5
バランスの取れた食事	介助あり	94.1 ¹⁾	78.8	15.3
余暇時間を楽しむ	介助あり	79.4 ¹⁾	64.2 ⁶⁾	15.3
課題に合わせて自決(作業場面)	介助あり	39.7 ¹⁾	25.7 ⁷⁾	14.0
課題遂行の準備(日常場面)	介助あり	89.7 ²⁾	75.9 ⁷⁾	13.8
通所・通院(日中活動)	あり	20.3	6.8 ⁸⁾	13.5
助けを求める	できない	39.1	29.7 ⁶⁾	9.4
交通手段の利用	介助あり	100.0	91.5	8.5
インスリンの注射	過去 14 日間に行われた	0.0 ¹⁾	5.5 ¹⁰⁾	-5.5
たんの吸引	過去 14 日間に行われた	0.0 ¹⁾	8.9 ¹⁰⁾	-8.9
外出しない(外出先)	あり	8.7	19.1 ⁵⁾	-10.5
補装具	つけている	2.9	13.4	-10.5
片方の手を胸元へ	一人できない	1.5 ¹⁾	14.1	-12.6
テレビ(日中活動)	あり	40.6	58.3 ⁶⁾	-17.7

1) は、N=68、2) は、N=67、3) は、N=66、4) は、N=421、5) は、N=423、6) は、N=424、7) は、N=412、8) は、N=394、9) は、N=422、10) は、N=417。

2) 要介護認定に必要な 84 項目について

要介護認定に必要な 84 項目について徘徊の有無によって、統計的な有意差が示されたのは以下の表 9-3 に示された項目となった。

① 麻痺・関節制限関連

麻痺・関節制限関連項目のうち徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、以下の 11 項目であった。

徘徊の有無別にみると、とくに、麻痺_右下肢の麻痺あり群は、「徘徊有り」群は、40.6% に対し、「無し」群は、71.0%と、「徘徊有り」群のほうが、「無し」群より、30.4 ポイント少なかった。次いで、「関節制限_肩関節」において、「徘徊有り」群は、12.1%に対して、「無し」群は、38.4%と 26.3 ポイント少なかった。「麻痺_左下肢」において、麻痺ありは、「徘徊有り」群で 46.4%、「無し」群で 72.4%と 26.0 ポイント、「徘徊有り」群のほうが少なかった。「関節制限_膝関節」のありの割合は、「徘徊有り」群は、22.7%で、「無し」群は、48.2%と 25.5 ポイント、「徘徊有り」群のほうが少なかった。「麻痺_右上肢」のありの割合は、「徘徊有り」群は、7.2%、「無し」群は、32.8%と 25.5 ポイント、「徘徊有り」群のほうが少なかった。「麻痺_左上肢」のありの割合は、「徘徊有り」群は、10.1%、「無し」群は、32.1%と「徘徊有り」群のほうが 21.9 ポイント少なかった。「関節制限_足関節」のありの割合は、「徘徊有り」群は、4.5%、「無し」群は、25.1%と 20.5 ポイント、「徘徊有り」群のほうが少なかった。「麻痺_右下肢」は、「徘徊有り」群では、あり 30.4 ポイントの差があった。

表 9-3 徘徊の有無によって有意差があった麻痺・関節制限項目のありの割合
(徘徊の有無による割合の差降順)

		徘徊有り (N=69)	徘徊無し (N=427)	徘徊の有無 の差
麻痺_右下肢	あり	40.6	71.0	-30.4
関節制限_肩関節	あり	12.1	38.4 ¹⁾	-26.3
麻痺_左下肢	あり	46.4	72.4	-26.0
関節制限_膝関節	あり	22.7	48.2 ¹⁾	-25.5
麻痺_右上肢	あり	7.2	32.8	-25.5
麻痺_左上肢	あり	10.1	32.1	-21.9
関節制限_足関節	あり	4.5	25.1 ¹⁾	-20.5
関節制限_肘関節	あり	3.0	22.7 ¹⁾	-19.6
関節制限_股関節	あり	10.6	25.1 ¹⁾	-14.5
麻痺_その他	あり	4.3	18.5	-14.2
関節制限_その他	あり	9.1	22.7 ¹⁾	-13.6

1) は、N=419

② 移動、複雑な動作、特別な介護、身の回りの世話等関連項目

徘徊の有無によって統計的有意差があった移動、複雑な動作、特別な介護、身の回りの世話等関連項目のうち、徘徊の有無で有意な差が示された項目は、11項目であった。

このうち「徘徊有り」の場合が「徘徊無し」の場合よりも介助が必要であったのは、「洗身」のみで有意差は3.6ポイントであった。

その他の項目は、「徘徊無し」の場合が「徘徊有り」の場合よりも介助が必要であった項目は、移動で介助が必要な割合は、「徘徊有り」群が30.4%、「無し」群が52.8%と22.4ポイント、有り群のほうが少なかった。「移乗」もまた、介助が必要な割合は、徘徊有り群が27.5で、「無し」群が46.6と19.1ポイント徘徊有り群の割合が低かった。

また、有意差が徘徊の有無によって、絶対値として大きかったのは、「両足立位保持」であり、「徘徊有り」群が36.8に対し、「無し」群が、72.0%と35.3ポイントの差が示された。「歩行」は、「徘徊有り」群は、一人ではできないは52.2%、「無し」群は、83.7%と31.5ポイントの差が示された。また「座位保持」は、「徘徊有り」群は、一人ではできないは10.1%、「無し」群は、36.9%と26.8ポイントの差が示された。さらに、「起き上がり」は、一人ではできないは65.2%、「無し」群は、88.1%と22.9ポイントの差が示された。

以上の結果からは、徘徊有り群は、移動、移乗、洗顔については、「徘徊有り」群は、「無し」群に比較して介助が必要な割合がかあり低いことがわかった。また、「両足立位保持」、「歩行」、「座位保持」、「起き上がり」、「えん下」といった機能は、徘徊有り群の自立度が高いことが明らかになった。

表 9-4 徘徊の有無によって有意差があった移動、複雑な動作、特別な介護、身の回りの世話等関連項目のありの割合（徘徊の有無による割合の差降順）

		徘徊有り	徘徊無し	徘徊の有無の差
		(N=69)	(N=429)	
		%	%	
両足立位保持	一人ではできない	36.8 ¹⁾	72.0	-35.3
歩行	一人ではできない	52.2	83.7	-31.5
座位保持	一人ではできない	10.1	36.9 ²⁾	-26.8
起き上がり	一人ではできない	65.2	88.1 ²⁾	-22.9
移動	介助が必要	30.4	52.8 ²⁾	-22.4
移乗	介助が必要	27.5	46.6	-19.1
片足立位保持	一人ではできない	82.6	95.8	-13.2
立ち上がり	一人ではできない	82.6	94.9	-12.3
えん下	一人ではできない	29.4 ¹⁾	40.0 ³⁾	-10.6

洗顔	介助が必要	53.6	58.5 ⁴⁾	-4.8
洗身	介助が必要	88.4	84.8	3.6

1) は、N=68、2) は、N=428、3) は、N=425、4) は、N=426、

③ コミュニケーション関連項目

コミュニケーション関連項目のうち徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、11項目であった。

「今の季節を理解できない」は、「徘徊有り」群の場合 66.2%で、「無し」群では、30.6%と 35.6 ポイントの差があった。次いで、「直前を思い出すことができない」は、「徘徊有り」群の場合 72.1%で、「無し」群では、38.5%で 33.6 ポイントの大きな差があった。「毎日の日課を理解できない」は、「徘徊有り」群の場合 75.0%で、「無し」群では、42.4%で 32.6 ポイント、「年齢を答えることができない」は、「徘徊有り」群の場合 69.1%で、「無し」群では、36.9%で 32.2 ポイント、「指示への反応が通じない」は、「徘徊有り」群の場合 66.2%で、「無し」群では、35.0%で 31.2 ポイント、「日常の意思決定ができない」は、「徘徊有り」群は、43.3%、「無し」群は、31.7%と 27.7 ポイント、「場所を答えることができない」は、「徘徊有り」群は、43.3%、「無し」群は 19.3%と 23.9 ポイントの差があり、これらの項目については、すべて「徘徊有り」群における自立度が低いことが示された。

また、「電話の利用」に介助が必要な「徘徊有り」群における割合は、97.1%、「無し」群では、78.3%と 18.8 ポイントの差があり、「金銭の管理」介助が必要な「徘徊有り」群における割合は、97.1%、「無し」群では、79.5%と 17.6 ポイントの差が示され、「徘徊有り」群において介助が必要な割合がかなり高いことが示された。

表 9-5 徘徊の有無によって有意差があったコミュニケーション関連項目のありの割合
(徘徊の有無による割合の差降順)

		徘徊有り	徘徊無し	徘徊の有無の差
		(N=69)	(N=429)	
		%	%	
今の季節を理解	できない	66.2	30.6 ³⁾	35.6
直前を思い出す	できない	72.1 ¹⁾	38.5	33.6
毎日の日課を理解	できない	75.0 ¹⁾	42.4	32.6
年齢を答える	できない	69.1 ¹⁾	36.9 ²⁾	32.2
指示への反応	通じない	66.2 ¹⁾	35.0 ⁴⁾	31.2
日常の意思決定	できない	59.4	31.7	27.7
場所を答える	できない	43.3 ²⁾	19.3	23.9

電話の利用	介助が必要	97.1	78.3 ³⁾	18.8
金銭の管理	介助が必要	97.1	79.5	17.6
意思の伝達	伝達できない	14.5	14.9	-0.4
名前を答える	できない	3.0 ²⁾	12.8	-9.8

1) は、N=68、2) は、N=67、3) は、N=428、4) は、N=426。

④ BPSD 関連項目

BPSD 関連項目のうち徘徊の有無によって統計的な有意差が示されたのは、18 項目であった。

徘徊の有無によって、最も差が大きかったのは「1人で戻れない」が「ある」が、「徘徊有り」群は、100%、「徘徊無し」群は、0%と示され、100ポイントの差があり、顕著な違いが示された。次いで、「ひどい物忘れ」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、95.7%、「徘徊無し」群は、50.4%と示され、45.3ポイントの差が示され、「目的無く動き回る」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、49.3%、「徘徊無し」群は、5.1%と示され、その差が44.1ポイント、「目が離せない」が「ある」は、「徘徊有り」群は、47.8%、「徘徊無し」群は、4.7%と示され、43.2ポイントの差が示された。これらの行動は、徘徊の有無によって40ポイント以上の差があった行動であった。

続いて、「火元の管理」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、42.6%、「徘徊無し」群は、5.1%と示され、37.5ポイントの差が示され、「落ち着きが無い」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、43.5%、「徘徊無し」群は、6.1%と示され、37.4ポイントの差が示され、「介護に抵抗」は、「ある」が、「徘徊有り」群は、59.4%、「徘徊無し」群は、24.1%と示され、35.3ポイントの差が示された。これらの行動については、「徘徊有り」群が、30ポイント以上、「徘徊無し」群より高い行動となっていた。

「被害的な行動」が「ある」が、「徘徊有り」群は、31.9%、「徘徊無し」群は、9.3%と示され

22.6ポイントの差が示された。「昼夜逆転」が「ある」が、「徘徊有り」群は、44.9%、「徘徊無し」群は、22.4%と示され、22.5ポイントの差が示された。「感情が不安定」が「ある」が、「徘徊有り」群は、45.6%、「徘徊無し」群は、23.4%と示され、22.2ポイント、「暴言や暴行」が「ある」が、「徘徊有り」群は、31.9%、「徘徊無し」群は、10.8%と示され、21.1ポイントの差が示され、これらの行動についても徘徊有り群にかなり高い割合で発生していた。

「不潔な行為がある」については、「徘徊有り」群が14.5%、「無し」群が2.8%、「異食行動がある」は、「徘徊有り」群が13.0%、「無し」群が2.6%、「物や衣服の破壊がある」は、「徘徊有り」群が10.1%、「無し」群が2.6%と、徘徊有り群と無し群の差は大きい行動ではあったが、徘徊有り群においても、その行動の発生は、かなり稀であることが示されていた。

表 9-6 徘徊の有無によって有意差があった BPSD 関連項目のありの割合
(徘徊の有無による割合の差降順)

		徘徊有り (N=69)	徘徊無し (N=429)	徘徊 の有 無の 差
		%	%	
1人で戻れない	ある	100.0	0.0	100.0
ひどい物忘れ	ある	95.7	50.4 ²⁾	45.3
目的無く動き回る	ある	49.3	5.1	44.1
目が離せない	ある	47.8	4.7	43.2
火元の管理	ある	42.6 ¹⁾	5.1	37.5
落ち着きが無い	ある	43.5	6.1 ³⁾	37.4
介護に抵抗	ある	59.4	24.1 ³⁾	35.3
被害的	ある	31.9	9.3	22.6
昼夜逆転	ある	44.9	22.4	22.5
感情が不安定	ある	45.6	23.4	22.2
暴言や暴行	ある	31.9	10.8	21.1
作話	ある	29.0	9.1 ⁴⁾	19.9
無断で収集	ある	21.7	2.1	19.6
幻視・幻聴	ある	30.4	13.1	17.4
同じ話や不快な音	ある	39.1	22.4 ⁴⁾	16.7
不潔な行為	ある	14.5	2.8 ⁴⁾	11.7
異食行動	ある	13.0	2.6	10.5
物や衣服の破壊	ある	10.1	2.6	7.6

1) は、N=68、2) は、N=425 3) は、N=427、4) は、N=428。

⑤ 特別な医療、認知症度、寝たきり度、廃用の程度関連項目

特別な医療については、回答率が低く、全体で90名の回答しか得られなかった。とくに徘徊有り群の回答は、3名のみであったため、分析ができなかった。

「認知症度」(Ⅱ以上)の割合は、「徘徊有り」群は、55.2%であり、「無し」群は、27.0%と28.2ポイントの差があった。一方、「徘徊無し」の場合の発生率が「徘徊有り」の場合の発生率を上回っていた。「寝たきり度」(B以上)は、徘徊有り群は、11.9%であったのに対し、「無し」群は、48.1%と36.2ポイント、「無し」群が高かった。

表 9-7 徘徊の有無によって有意差があった認知症度、寝たきり度

		% (N=67)	%	
認知症度	II 以上	55.2	27.0 ¹⁾	28.2
寝たきり度	B 以上	11.9	48.1 ²⁾	-36.2

1) は、N=404、2) は、N=399。

(2) サービスの利用状況及びサービス利用回数

「訪問介護」、「訪問入浴」、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」、「通所介護」、「通所リハビリテーション」、「福祉用具貸与」の7種類の介護保険サービスの利用状況及び利用回数について、徘徊の有無で統計的な有意差があったのは、「通所介護」、「福祉用具貸与」、「訪問入浴」、「訪問看護」、「訪問介護」の5種類で通所介護以外のサービスにおいては、すべて徘徊無し群のサービス利用率が高かった。

一方、「徘徊無し」群で「通所介護」は48.5%が利用しており、高い割合を示していたが、「徘徊有り」群は、75.4%とさらに高い利用率が示された。「徘徊無し」群で利用率が最も高かったのは、「福祉用具貸与」であり、75.4%と示された。「徘徊有り」群も高く、60.9%であったが、その差は、14.5ポイントと大きかった。「訪問入浴」は、「徘徊有り」群では、2.9%と低かったが、「徘徊有り」群では、15.4%と高い割合であった。「訪問看護」は、「徘徊有り」群の利用率は、17.4%、「徘徊無し」群は、35.9%と「徘徊無し」群の利用率はかなり高かった。

表 9-8 徘徊の有無によって統計的有意差があった項目のありの割合（サービス利用状況）

		徘徊有り	徘徊無し	徘徊の有無の差
		(N=69)	(N=423)	
		%	%	
通所介護	あり	75.4	48.5	26.9
訪問入浴	あり	2.9	15.4	-12.5
用具貸与	あり	60.9	75.4	-14.5
訪問看護	あり	17.4	35.9	-18.5
訪問介護	あり	18.8	39.0	-20.2

2. 徘徊行動の有無別提供されたケア内容

(1) 徘徊行動の有無別高齢者に提供されたケア内容別ケア発生率

徘徊行動の有無別に高齢者に提供されたケア内容別の発生率に最も顕著な差がみられたケア内容は「行動上の問題の予防的対応」であり、「徘徊有り」群の発生率が 52.2%、「無し」群の場合の発生率が 14.7%であり、37.5 ポイントもの差が見られた。

次いで、「行動上の問題の発生時の対応」は、「徘徊有り」群の発生率が 42.0%、「無し」群の場合の発生率が 11.2%であり、30.8 ポイント、「外出時の目的地までの移動」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 45.7%であり、22.4 ポイントであり、これらのケア内容で発生率の差が 20 ポイント以上あった。

また、「排尿」は、「徘徊有り」群の発生率が 71.0%、「無し」群の場合の発生率が 53.8%であり、17.2 ポイント、「入浴」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 57.1%であり、11.0 ポイント、「敷地内の移動」は、「徘徊有り」群の発生率が 68.1%、「無し」群の場合の発生率が 57.1%であり、11.0 ポイントが続き、「更衣」は、「徘徊有り」群の発生率が 88.4%、「無し」群の場合の発生率が 79.0%であり、10.5 ポイントと 10 ポイント以上の発生率の差が見られた。

「徘徊有り」群の場合の発生率が高かったケア内容としては、「調理」97.1%、「更衣」88.4%、「食器洗浄・食器の片づけ」88.4%、「洗濯」82.6%、「摂食」79.7%、「薬剤の使用」73.9%、「排尿」71.0%などであった。

「徘徊無し」群の「徘徊有り」群よりもケアの提供率が高かったケアの種類は、「清掃・ごみの処理」、「水分摂取」、「対象者に関する間接業務」、「配膳・下膳」、「口腔・耳ケア」、「観察・測定・検査」、「整容」、「移乗」、「運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉歯科及び手術にかかる処置」、「基本日常生活訓練」、「起座」、「清拭」、「呼吸器、循環器、消化器、泌尿器にかかる処置」、「スポーツ訓練」、「体位変換」、「病気の症状への対応」、「食べ物の管理」、「洗髪」の 62 種類中 18 種類であった。これは、必ずしもすべてのケアにおいて「徘徊有り」群が、ケアの発生率が高いわけではないことを示していた。

表 9-9 徘徊行動がある高齢者群に提供されたケア内容別ケア発生率（有無の差降順）

	徘徊有り (N=69)	徘徊無し(N=429)	発生率 の差
	%	%	
72 行動上の問題の予防的対応	52.2	14.7	37.5
71 行動上の問題の発生時の対応	42.0	11.2	30.8
65 外出時の目的地までの移動	68.1	45.7	22.4
41 排尿	71.0	53.8	17.2
11 入浴	68.1	57.1	11.0
21 敷地内の移動	68.1	57.6	10.5
18 更衣	88.4	79.0	9.4
34 摂食	79.7	70.9	8.8
33 食器洗浄・食器の片づけ	88.4	81.4	7.1
31 調理	97.1	90.2	6.9
56 戸締まり・火の始末・防災	15.9	10.7	5.2
81 薬剤の使用	73.9	69.0	4.9
66 外出時の目的地での行為	10.1	6.5	3.6
92 応用日常生活訓練	10.1	6.5	3.6
51 洗濯	82.6	79.5	3.1
59 その他の会話	36.2	33.3	2.9
53 整理整頓	31.9	29.8	2.0
55 金銭管理	4.3	2.3	2.0
64 来訪者への対応	14.5	12.6	1.9
99 その他の機能訓練	4.3	2.6	1.8
62 電話、FAX、E-mail、手紙	5.8	4.4	1.4
14 洗面・手洗い	62.3	61.1	1.2
79 その他の行動上の問題	1.4	0.7	0.7
39 その他の食事	2.9	2.3	0.6
73 行動上の問題の予防的訓練	1.4	0.9	0.5
42 排便及びおむつ・パット介助	55.1	54.8	0.3
101 対象者に関する間接業務	58.0	58.0	-0.1
67 職能訓練・生産活動	0.0	0.2	-0.2
109 その他の間接業務	0.0	0.2	-0.2
54 食べ物の管理	4.3	4.7	-0.3
13 洗髪	2.9	3.3	-0.4